



# 年度末における達成度の確認を行きましょう！

## (中学校・数学編)

『岡山型学習指導のスタンダード』には、補充学習のポイントの一つとして、「目標達成度の確認を行い、課題が見られる児童生徒には、手立てを打つこと」(p.10)が示されています。

今号では、今年度実施された各種調査結果に基づき、当該学年で付けたい力が身に付いているか、確認するための**チェックポイント例**と**達成度確認の方法例**を紹介します。

### チェックポイント例

[ ] は、出題された調査及び学年と設問番号を表している。(国=全国調査、県=県調査、確=学力定着状況確認テスト)

- 【1年生】 分数の除法の文章問題を表した図を読み取ることができる。 [県1年4]
- 数直線上の点が表す負の整数の値を読み取ることができる。 [確1年1(1)]
- $2 \times (-5^2)$  を計算することができる。 [確1年1(2)]
- $100 - 20a = b$  の式が表される場面を選ぶことができる。 [確1年2(2)]
- 経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現することができる。 [国4]

全国6(1)「4つの数の和」

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、4つの数の和は4の倍数になることが成り立つかどうかを下のように確かめます。下の□に当てはまる式を書きなさい。

$12, 13, 17, 18$  のとき  
 $12+13+17+18=60=\square$

- 【2年生】 比例・反比例で  $x$  の値が変化するとき、 $y$  の値がどのように変化するかを理解している。 [県2年7]
- 数量の関係を一元一次方程式で表すことができる。 [確2年2]
- 説明をよみ、 $6n+9$  を  $3(2n+3)$  に変形する理由を完成することができる。 [確2年6(1)]
- 四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書くことができる。** [国6(1)]
- 2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶことができる。 [国8(2)]

自校の生徒はどんな状況かな。学力定着状況確認テスト結果とも照らしながら、各学年における学習内容の振り返りと仕上げを実施しましょう。



©岡山県「うらっち」

### 達成度確認の方法例

定期考査において、課題が見られた問題の類題を出題して達成度を確認し、年度末の授業や春休みの課題につなげる例を紹介します。

① 定期考査で出題可能な全国調査問題を選定する。

② 定期考査の結果を報告書を用いて分析する。

③ 分析に基づき、つまずき解消に向けた手立てを打つ。

3学期の定期考査では、**過去の全国調査を参考**にした相対度数の問題を出そう。



正答率が約30%だったけど、全国調査では約37%だから、課題があると言えるな。ウ(誤答)を選んだ生徒が半分近くいるけど、**何が原因か報告書で確認**しよう。

回答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率	正答
10	1. ア	10.0%	0
	2. イ	10.0%	0
	3. ウ	10.0%	0
	4. エ	10.0%	0
	5. オ	10.0%	0
6	6. 何れも正解ではない	50.0%	0
7	7. 何れも正解ではない	50.0%	0

定期考査を返却する時に、間違いの原因を確認した上で、**「ふりかえりプリント集」**を使って類題を解かせ、**生徒自身**につまずきを解消できているか**再確認**させてみよう。

補充学習等で活用できる資料

全国調査及び学力・学習状況確認テスト	「ふりかえりプリント集」
県調査	「フォローアップ教材」
<b>NEW</b> 基礎学習補充	「中学校数学くり返しシート」

授業で指導しても、学習して時間が経つと分かっていたところが分からなくなったり、間違いやすいところでもずいぶんすることがあるから、**報告書の誤答の傾向やその原因についての記載**が、**学習指導の参考**になるね。



生徒の力を高め学習内容を確実に定着させるためには、全国調査問題を定期考査に出題することに加え、誤答について、「何が」「どう」足りなかったのかを生徒自身に考えさせたり、家庭学習等とも関連付けたりしながら、**生徒の主体性を大切にしながら誰一人取り残さない取組を推進**することが求められます。

もう一押し!

